

Library News Letter



Nov. 2015

🌸🌸 2015 秋季号 🌸🌸

～ 先生から学生へ おすすめの一冊 ～



今年も残すところあと2ヶ月となりました。月日が経つのは早いですね。さて、このたびの秋季号では、読書の秋にちなんで、図書館専門委員会の先生方より、学生時代に読んでほしいオススの一冊をご紹介します。

読書といっても何を讀んだらいいかわからない・・・そんな貴方にぴったりの一冊がきっとみつかるはず。図書館に所蔵していますので、是非手にとってみてくださいね。

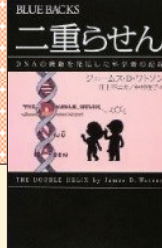


図書館長 山内直樹先生オススメ

『二重らせん』

ジェームス・D・ワトソン著、江上 不二夫訳、講談社 2012

所蔵：工学部図書館



今年度もお二人の日本人研究者がノーベル賞を受賞された。非常に喜ばしいことである。21世紀になってから多くの日本人が生理学・医学、物理学、化学の分野で受賞されており、20世紀後半からの日本の基礎・応用科学研究の地道な積み上げがこれらの受賞につながっているものと思われる。本書は20世紀最大の発見の一つであるDNA構造の発見物語で、若き日のワトソン博士の目から研究の先陣争いの過程をみたもので、半世紀前に単行本として出版され、新たにブルーバックシリーズとして刊行されている。発見に関わったその当時の研究者たちが何を考え、どのような研究生活を送っていたかなどを知ることができ、非常に興味深い。ぜひ、学生諸君に一読を薦めたい書籍である。

また、最近「二重螺旋 完全版」として前作にはなかった資料を加え新たに出版されており、時間が許せば合わせて読まれることを薦めたい。

人文学部 村上龍先生オススメ

『なぜ人はエイリアンに誘拐されたと思うのか』

スーザン・A・克蘭シー著、林 雅代訳、早川書房 2006

所蔵：総合図書館



本書は、アメリカの大学に籍をおく心理学者が、<地球外生命体による誘拐（「アブダクション」）を経験した記憶のある人>を募集しておこなった実験とその成果について、一般向けに平易に語る著作です。お話の中身が興味ぶかいものさながら、この本を紹介するうえでとくに強調したいのは、著者自身はじつは、地球外生命体とのコンタクトの可能性をかぎりなく低く見積もっており、したがって被験者の記憶がニセモノであることを前提として話をすすめている点です。彼女は、「偽記憶」という心理学上の主要テーマに挑戦するにあたって、その優れたサンプルとして「アブダクション」を選んだのです。そのかぎり、本書は、大学において研究する（卒論の執筆もその一環です）とは如何なることかを雄弁に物語る、最良のサンプルとなり得ています。題材にいたずらに淫することには留まらない、研究という営為の醍醐味を、本書を通じ実感していただけたら幸いです。

教育学部 五島淑子先生オススメ

『名著講義』

藤原 正彦著、文藝春秋 2009

所蔵：総合図書館



数学者の藤原正彦が担当した、お茶の水女子大学における読書ゼミの記録をまとめた本です。この読書ゼミは、毎週1冊の文庫を読んで、翌週レポートを提出し、授業でディスカッションするというもので、ゼミの目的は、主に明治期の偉人を通し、日本人としての生き方や考え方に触れてほしいというものです。

学生のみなさんにはこの本で授業の様子を楽しんだ後、文中で紹介されている文庫の数々をさらに手にとっていただきたいと思います。山口県出身の宮本常一氏の『忘れられた日本人』や、藤原正彦氏の若いときのエッセイ『若き数学者のアメリカ』も紹介されています。藤原氏の父親は小説家でもあり、気象学者でもあった新田次郎氏です。

1冊の本と出会うことで、さらに新たな出会いがあります。1冊の本をきっかけとして、数多くの本を読んで、充実した大学生活を送ってほしいと思います。

一口メモ ～読書の秋の由来～

読書の秋の由来は、中国の詩人、韓愈が残した詩からきていると言われています。その詩がコチラ → 時秋積雨霽 新涼入郊墟 燈火稍可親 簡編可卷舒
秋の夜は過ごしやすいため、灯りをつけて読書をするのに一番適した季節である、という意味のようです。



農学部 赤壁善彦先生オススメ

『現代化学』

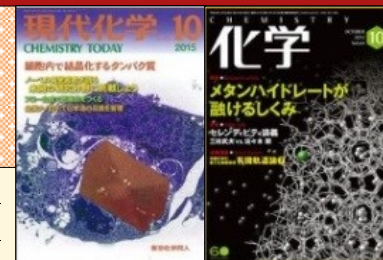
東京化学同人

所蔵：総合図書館、工学部図書館

『化学』

化学同人

所蔵：全館



「現代化学」(げんだいかがく) および「化学」(かがく)は、東京化学同人および化学同人が出版する化学月刊誌である。毎回、各化学分野の最新の注目のトピックス、新聞やテレビを賑わしている化学に関する内容の平易な解説、研究者たちの対談、一つのテーマにこだわった連載記事、論文執筆や留学のための情報、最新書籍の紹介など、純粋化学から応用生命化学まで、多岐に及ぶ内容が掲載されている。専門的な内容も、平易な解説により、正しい知識を身につけることができる。また教科書に載っていない最新の情報に触れ、また、世界から注目されている研究者たちの対談内容から刺激を得ることができる。よって、これから化学の分野の研究者を目指す者、あるいは現在、研究を行っている者、化学を苦手と思っている者にも非常に有用な書籍である。

共同獣医学部 角川博哉先生オススメ

『品種改良の世界史 家畜編』

正田 陽一著、悠書館 2010

所蔵：総合図書館



人類は、大地や海水からとれるミネラル以外の全ての栄養素を、他の動植物を食べることで獲得して生きている。本書は、人類が利用するための動物である、「家畜」の歴史を総合的に説明しており、各家畜の発祥はどこで、どのような目的を持って家畜化したのか詳細に説明している。本書では、肉牛、乳牛、ウマ、ブタといった代表的家畜からヒツジ、ヤギ、アヒル、シチメンチョウ、などあまり日本人には馴染みのない家畜も網羅されている。各家畜ごとに重要な品種について詳細に説明され、たとえば、乳牛は乳成分の特徴によりバター向き、チーズ向きなどの解説がされる。またブタはラード向け、赤肉向け、焼肉向けなどの解説がされる。考古学的な考察もされている。この本を通読することで、現在、世界の各地で生きる人類にとって、家畜と呼ばれる動物達がいかに重要であるかを理解できる。

埋蔵文化財資料館 田畑直彦先生オススメ

『農耕社会の成立シリーズ日本古代史①』

石川 日出志著、岩波書店 2010

所蔵：総合図書館



弥生時代は、日本（九州～東北）で稲作を中心とする農耕社会が成立した時代です。本書は、日本で人類が登場する旧石器時代から定型的な前方後円墳が出現する古墳時代のはじまりまでを、これまでの学史と最新の調査研究成果に基づいてわかりやすく描いています。一読すると著者が強調するように、縄文時代から弥生時代への連続性と、ひとくくりではとらえきれない日本列島内の多様性に驚かされます。社会の画一化が進み、地域再生が叫ばれる現在、環境に柔軟に対応して現在につながる農耕社会を築き上げた先人の知恵は、今後の日本の未来を考える上でも大いに参考になるのではないのでしょうか。



『反=日本語論』

蓮實 重彦著、筑摩書房 1977

所蔵：総合図書館

言葉とは、いわばコンタクト・レンズのようなものです。それを用いることで、これまでぼんやりとしか見えていなかった事物の輪郭が鮮明になり、新しい世界が私たちの眼前に立ち上がります。果てのない世界の見方を未だ知らず、したがって世界のありようを心得ることもなかった近視の私たちは、この透明な道具をもってはじめて世界を見と出すことが可能になります。ただし、それはコンタクト・レンズという物質の側面にすぎません。にもかかわらず、その透明な存在性に甘えてこれを単なる便利な道具と高を括るならば、私たちの見込みはたやすく裏切られ、不意にそれがずれたり、また私たちの眼とそれのあいだに塵や埃が挟まることで、異物感とともに世界は涙まみれに滲んだ光景へと歪み、さらには痛みの激しさのあまり、もはや世界を正視することさえ私たちには許されなくなります。それ自体の存在性を認識させない透明さこそがこの道具の利便性を保証していたはずが、そうしてにわかにならぬ物質性を露呈するときには、すでにこれは役立たずの単なる物体であるばかりか、こうした不透明さをもって、私たちと世界との関係を問い直す危険な凶器にまで変容してしまいます。言葉をとおして他者の理解を試みたものの、その言葉をもって他者の外部性と直面し、それどころか当の言葉そのものが他者もしくは外部それ自体であることを痛感した瞬間に、私たちは、これら言葉によって思考や行動を規定された、やはり底知れない外部として、あらためて自分自身と対峙しなければならないわけです。web上の表現に「文系は作者の気持ちでも考えてろ」と揶揄する秀逸な紋切り型があります。これには「理系は円周率でも暗記してろ」だの「体育系は体幹でも鍛えてろ」だの「芸術系は爆発でもしてろ」だの、文系の私にも相応に言い分はありますが、しかし中高時代の現代国語の成績とは無関係に、自分自身の気持ちすら十全には把握できない私にとって、他者である「作者の気持ち」をその言葉の向こう側に見透かすことなど、到底できようはずありません。『反=日本語論』は、文系理系を問わず「作者の気持ち」がわからないまま途方に暮れてきたみなさんや、あるいはむしろ運よくそれがわかってしまったみなさんにこそ、一読をお薦めしたい書物です。

関連資料展示のお知らせ

今号で紹介された本や、関連する資料を図書館で展示します。貸し出しもできますので、是非、図書館まで足をお運びください。また、最寄りの図書館に所蔵がない場合は取り寄せも可能です。

- ☆総合図書館 【展示場所】1階新着図書コーナー 【展示期間】2015年11月中
- ☆医学部図書館 【展示場所】1階カウンター付近 【展示期間】2015年12月中旬（予定）
- ☆工学部図書館 【展示場所】1階展示コーナー 【展示期間】2015年11月中